

第3回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和4年12月21日（水）午後7時00分～午後8時30分
- 2 会場 千手コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 21名
 - (2) 事務局 7名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、富井教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、樋口生涯学習課長、山岸教育総務課長補佐

4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
-----	------

① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和4年12月21日現在）

事務局 (資料に基づき説明)
(質問等なし)

② 教育内容の確認について

ア 学習指導要領の役割、内容、運用状況等について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 子供が受けているテストを見てみると、やはり相変わらず我々のときと一緒に、答えが1個しかないような試験を受けているような状況であり、必ずしも、学習指導要領のとおりになっていないという感じがする。先ほど学習指導要領では、答えは1つではないといいつつも、それが実態と離れている部分があるんじゃないかと感じた。

事務局 考查というものはどの学校でもやっているが、ただ、これはあくまでも評価の一つの指標でしかなく、それだけが全てではない。子供たちの学びに向かう力、人間性、そのあたりも資質能力として評価し、そしてそこを伸ばしていきたいと思っている。中学校のテストについては、これから少しずつ変わっていくよう、そのように指導していきたい。

委員 この会議において、学習指導要領の説明も大事だが、意見交換をしていく中でどんな学校のスタイルがいいのかイメージが膨らんでいかないと、提言を依頼されている中身についても、まとまっていかない。結局何か1学年に何学級になりますとか、学校をどこに置いたらいいんだという話だけにしかない。子供たちと親だとか教員だとか、地域にとってどういうスタ

イルの学校がいいのかなと、今にとられる必要はないと思う。キャンパスの中に学校が二つあってもいいでしょうし、自由な発想で、その前提となるのは今の子供たちがどんな学びをしたいのかなというのを私たちが感じていることをもっと意見を述べながら豊かな議論をしていきたいなというふうに思うので、そんな運営を心がけていただければと思う。

委員 学習指導要領は、10年前より厚くなり、今説明があったアクティブ・ラーニングなどが改めて入ったというふうに理解していいか。そういったことを、子供たちは学ぶ側だが、それを全ての先生がいきなり対応できるのか。

事務局 今の学習指導要領は平成29年に出たが、これが出る前から内容はいろいろ示されていたので、今後の学習に備え、全国で研修の場が増えていたのが事実である。そして、中学校であれば令和2年、小学校では令和元年からだが、一応できるというところでスタートを切っている。ただ、その理解は動きながら、やりながら進んでいるところである。

委員 学習指導要領は10年に1度新しくなっているわけだが、ここが新しくなったということが示されるので、それに向けて学校全体で研修を進めているということになる。昨日まで白だったものが、学習指導要領が提示されてから赤に変わった、子供たちはみんなそっちのほうになるということとはほぼあり得ないので、白からだんだん赤になるようになっていくということである。その過程には欠かせないのが職員の研修である。この研修が十分に進まないと、なかなか変化が生まれてこない状況がある。また、高校入試も文科省の考えに基づいて今後変わってくるだろうというふうに言われている。そうすると、中学校の普段の勉強もそれに対応するような形で変わってくるということであり、そういった流れを踏んで次第に学習指導要領が、目指すところに向けて変わっていくものであると捉えている。

委員 学習指導要領も確かに大切だが、この会議は学区編成をどうするかという大問題を議論するべきである。今は子供たちの教育論ばかりの話であり、このようなことをしなければ学区編成ができないのか。地域自治組織連絡協議会の中では学区編成をどうするか色々な会議をして、その中でお話ししていたわけで、我々としてはもう少し地域のことをよく考えた中で学区編成をここで議論したいのである。せっかくここに来ているのであれば、実のある会議にしてもらいたい。

事務局 今3回目ということで、幾つか学校あるいは学区、学習、全体のことをいろんな分野で、いろんな切り口で皆さんと情報共有したいということでこちらから資料をご提供して、皆様からいろんなご感想、ご意見をいただいているところである。委員さんがおっしゃられるように、地域自治組織ではい

ろんなご協議をされた中で、学区の再編の組合せを意識されてご議論されてこられたことと思う。3月に地域自治組織連絡協議会からで私どものほうにご提言等をいただき、それに基づいて今中学校のあり方検討委員会という形で設けさせていただいている。当然最善の組合せというのは最終的には皆様からご議論いただいた上で方向性のある程度出していただく必要があると思っている。ただ、そのためには今の教育というものの現状、それから課題、そして市の置かれた状況、現場の今の現況、そういったことを委員の皆様から共通認識としてお互いに知り合っ、疑問点があったらそれを意見交換しながら、ある程度全体のことを把握した上で具体的なご議論に進んでいただきたいと思います。前半は一緒に学ぶ機会あるいは確認する機会を設けさせていただいて、後半からしっかりと具体的なご議論をいただければと思っているのでご理解いただきたい。

② 教育内容の確認について

イ コミュニティ・スクールの制度、取組状況、課題等について

事務局 (資料に基づき説明)

委員 これそのものの立ち位置がよく分からず、表になかなか出てこないのはなぜか。こういうことをやっているということはよく分かるが、なぜ現場でこういう話が出てこないのか。コミュニティ・スクールという仕組みがあって、実際それに関わっている人たちがいて、それに対して、市民なり、地域住民なり、保護者なりがどれぐらい理解しているかそれが意外と周知されていないと思う。

事務局 コミュニティ・スクールの活動は、学校によっては、ホームページや、学校だよりなどでインフォメーションしているところもある。教育委員会としては、こういう活動をしていますと、もっと工夫してアピールができるように学校に働きかけていきたいと思う。

委員 自分は地元の小・中学校に関わっているが、学校によって取り組み方がかなり違うのかなという感じがある。小学校はモデル校をしたということもあるので、非常に地域の方からも関わってもらっている。いろんな方からアイデアを頂戴したり、いろんな方をお願いをしたりして関わっていくことが、サポートしていこうというふうな取組、地域の人たちからもまた学校に入ってもらおうと、開かれた学校につながるような形にしていこうという取組をしている。中学校では生徒会の役員を、この間実は熟議を開かせてもらい、生徒会の執行部と一緒に学校運営協議会のスタッフと話し合いをした。そういったことをしながら、どんな学校にしていきたいか、どんな地域にしていきたいかというようなことを話し合えることが、学校運営協議会の一つのいいところじゃないのかなと感じている。

学校運営協議会は、何とか地域と学校をつなげることができればいいなというふうなことで、何とか学校が動きやすいような環境をつくってあげることができないか、考えながらやっている。地域が、子供たちには勉強が大事だということがあれば、週1回講師を頼んで、放課後子供たちや、受験生に勉強を教える寺子屋塾を開いたりして進めている。そういったことが学校運営協議会の中でできるようになっていくという形が、今自分が関わっているところの実態である。学校運営協議会の委員さんと話をさせていただく中で、やっぱり子供たちの学力のことを話し合ったり、あるいは健康面のことを話し合ったり、それから道徳的な生徒指導的な部分を話し合ったりとか、学校とうまく連携していく方法を探っているところである。

ただ、きっと各学校によっていろんなPRの仕方も違うと思う。ホームページにコミュニティ・スクールとか学校運営協議会で載せている学校もあるし、載っていない学校もある。いろんな差があると感じているが、そこはやはりコミュニティ・スクールのコーディネーターや、あるいは学校運営協議会で学校と協議を進めていって、もっと住民や保護者の皆さんに知られるような形の体制をつくっていくということが大事だと、今お話をお聞きして感じた。

③ 委員の意見・感想等について質疑応答（第2回会議関係）

事務局 （資料に基づき説明）
（質問等なし）

(3) その他

① 次回会議の開催日について

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

② その他

なし

(4) 閉会